

ヒメコヌカグサ		<i>Agrostis valvata</i> Steud.	準絶滅危惧
(環境省:準絶滅危惧)			イネ科
選定理由	今すぐ絶滅が危惧されるような状況ではないが、生息地周辺では大規模な開発が続いており、種の存続を脅かしている。	写真(岐阜県博物館) 標本	
形態の特徴	稈は直立し、高さ40-70cm。葉身は長さ7-15cm、幅2-5mm。葉舌は高さ1-3mm。花序は長さ7-15cm、枝は半輪生し斜上、上方で枝を分けまばらに小穂をつける。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は5-6月。貴重な種が数多く分布している湧水湿地を特徴づける種のひとつ。県南中部から県南東部にかけては、湧水に涵養された湿地が点在している。水田わきの溝などにも見られる。		
分布状況	日本固有種で、本州から九州に分布する。岐阜県では、県南中部と県南東部に見られる。		
減少要因	近年ベッドタウンとしての宅地開発や工業団地の大規模造成、高速道路建設が顕著で、生育に適した環境そのものが失われつつある。また、湧水湿地が減少している。		
保全対策	生育環境の湧水湿地とその周辺の疎林そのものの保全。大規模な宅地造成や道路建設などの工事の回避。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993		

文責:福岡義洋